

# 企業での環境問題意識調査

橋本 繁（社会人コース）

## 1. はじめに；

地球温暖化に代表される環境問題は、最近の異常な気候問題から非常に身近に感じられようになってきた。又昨年は「洞爺湖サミット」が開催され、環境問題がさらに注目されるようになってきている。企業にとって社員の環境意識を正しく把握しておくことは今後の環境対応戦略を検討する上でも重要である。企業内での環境問題についての意識調査が殆ど報告されていないが、次の3点に注目することで社員の環境意識が明確になるのではないかと仮説の下に調査を行った。

- 1) 個人としての環境への取り組みと職場での環境への取り組み
- 2) ISO-14001の活動と職場での環境への取り組み
- 3) 職場・職制での環境問題の話題の頻度と職場での環境への取り組み
- 4) 併せて、自由意見を聞く事で、環境意識がより明確になるのではないかと考えた。

## 2. 調査方法；

- 1) 社員がパソコンを起動させて社内LANに接続する時に質問事項を聞く画面が立ち上がり、そこでの質問に順次回答して行くシステムで調査を実施した。
- 2) 調査期間は2008年6月17日から一週間で、回収率は約65%である。(回答者数は1310名)
- 3) 集計は野村総研のテキストマイニングのソフトウェアであるツルーテラー等を用いた。

## 3. 結果と考察；

- 1) 個人としても職場としても、環境への取り組みに肯定的な人の割合は80%を超え、その理由も人類的な課題とする人が多い。個人としての環境への配慮は年齢が高くなるほど認識は高くなっている。
- 2) ISO-14001への取り組みも積極的であり、年齢が高いほど積極的に取り組んでいる30歳代、40歳代は身の回りの業務で手一杯で社会的関心がやや薄くなるようである。
- 3) 80%近くの人が職場で環境についての話し合いが充分行われているとの認識を持っている。
- 4) それぞれの質問間の関連は極めて高い。即ち、職場で環境について取り組んでいる人は、ISO活動、職場での環境話題への参画、職場外での環境配慮が高い。
- 5) 自由意見をみると、地球温暖化、二酸化炭素に関する言葉が殆ど出現せず、生活に密着したゴミ、廃棄物、分別という言葉が多い。
- 6) 現状に対して否定的態度を表明した人の自由意見を読むと、求めているレベルが高いものが多い。環境問題について意識は高いが、現状を見ると納得がいかなく、現状の改善を求めている層の意見と解釈できる。

## 4. 残された課題；

調査方法が優等生的回答を誘導した可能性は否定できないものの、調査結果通り社員の環境意識が高い水準にあると仮定するならば、それを規定している要因は何か。年齢と性別以外の変数を考慮する必要がある。